みどりとひと

SUGINAMI CITY

みどりの新聞　平成19年3月23日　発行　No.139

連載 すぎなみの街路樹

杉並の名所“ケヤキ並木”中杉通り

中杉通りは青梅街道から始まり、ＪＲ中央線、早稲田通り、西武新宿線、新青梅街道、西武池袋線と交差しながら目白通りまで続く主要道路で、杉並の名所であるこのケヤキ並木は青梅街道（区役所横）から早稲田通りまで続き、早稲田通りと交差する少し前（約二百メートル）からは八重桜が交互に植樹され花の季節には見事です。

かつては、現在のパールセンター商店街と、松山通りが主要生活道路であり、特に阿佐ヶ谷駅から＊世尊院、阿佐谷北通郵便局、杉並第九小学校を通り、貫井子の権現（現・練馬区貫井の＊円光院）に至る現在の「旧中杉通り」は「権現道」と呼ばれていました。第二次世界大戦の末期（昭和二十年）に空襲による火災の延焼防止のために世尊院から青梅街道まで強制疎開によって防火帯が急きょ敷かれ、戦後この空地帯が南北幹線道路建設計画となり、昭和二十五年に駅前広場の確保とともに中杉通りの原型となる道路の造成が開始されました。昭和二十九年には地域住民の要望が実りケヤキ百本余りが植樹されて並木が誕生し、昭和五十五年にはさらに通りを北へ延長するために、世尊院では本堂を移動し、本堂と観音堂・墓地が東西に二分されて、早稲田通りまで続く現在の中杉通りができました。その際には、ケヤキだけでなく他の樹木も取り入れたいという地元の要望を取り入れ、サトザクラ（普賢象、関山などの八重桜類）、ナンキンハゼ等を植栽しました。そして、昭和五十六年に区の木“アケボノスギ”を中心に駅前の「みどりの広場」ができました。目下工事中の早稲田通りから白鷺までは幅員が狭いため八重のサトザクラ（天の川）が植えられる計画で、平成二十一年に完成の予定とのことです。

見事なみどりの景観維持には落葉処理など地域住民の方々の努力と協力によって保たれていることを忘れず魅力的“名所ケヤキ並木”を大切にしたいものです。

ケヤキは古名ツキ（槻）とも呼ばれ、都道の街路樹としては少数派ですが美しい新緑、紅葉、裸木と表情を変えとくに夏季の緑陰は憩いの場として優れものです。

＊世尊院、円光院：真言宗豊山派のお寺

専門家に聞く 園芸ワンポイント

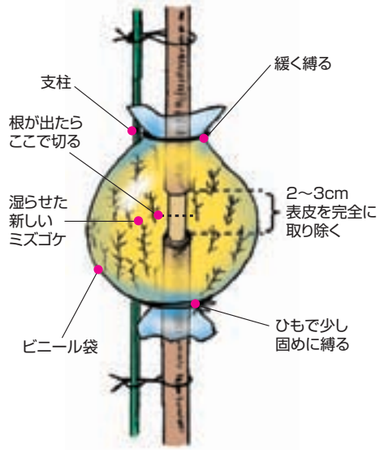
指導 澤地 家治 先生

みどりに関する専門相談は
塚山公園みどりの相談所
TEL 03−3302−9387（毎週土・日曜日）

ゴムノキの取り木のやり方

この方法の利点は、発根したものを鉢植えにすれば、すぐに観賞用に使えることです。背丈が高く伸びすぎて、みにくくなったものや、冬に下葉が枯れ落ちて、バランスが悪くなったものの伸びすぎた部分を、切り捨てることなく丈の低い株が作れ、挿木床のような設備も必要としません。

まず、幹の直径の1.5倍くらい（2cm〜3cm）の長さでゴムノキの幹の表皮の厚い部分（形成層）を、小刀かカッターを使って環状に残さず剥ぎ取ります。（イラスト参照）このときにゴムの幹から白い粘液が出るのでよくふき取ります。皮を剥いだ所に握りこぶしほどの量の湿らせた新しいミズゴケをしっかり巻きつけ、落ちないように外側をビニールで包みます。ビニールの上部は後で水を補給できるように広く口をあけ、軽く結び、下部は余分な水がはけるように上より少し硬めにしばります。切り口が折れやすいので支柱を添えて、しっかり固定します。ミズゴケが乾かないように時々上から水をやりますと、1ヶ月くらいで傷口より根が出て、ミズゴケの中に入り、透明なビニールを通してみえるようになります。そうしたら切り口の下で切り取り、ミズゴケをつけたまま赤玉土（3〜8mm）を入れた鉢に植えて出来上がりです。取り木の時期は4月下旬頃〜9月頃がよく、6月〜7月が好期です。鉢植えしたた後、すぐに肥料を与えず、新芽が動き始めてから、生育促進のために窒素分の多い化成肥料か、液体肥料1,000倍液を少しやります。



みどりの窓

みどりの相談所の先生が変わります

みどりの相談所の相談員として長年ご担当いただいた福本伊之助先生が退職され、4月から担当の先生が変わります。そこで、今回は新しい先生の紹介をします。

森　正　先生（グリーンコンサルタント）

東京都の職員として、長年みどり公園行政に関わってきた森先生。

上野の緑化相談所を最後に退職された後は、神代植物公園のみどりの相談所に勤務され、現在は多摩市グリーンライブセンターで緑化相談や講座の講師としてご活躍されています。子どもの頃は自然豊かな福島県で育ち、華道の師範であるお母様の手伝いをする中で植物の知識を身につけられ、「良い枝」を見分ける目を養われたそうです。

現在は自然とのふれあい、山歩き、園芸や野菜作りに力を入れていきたいと思っています。花の栽培、種から花を育てること、病害虫防除が得意です。いろいろな事を聞いていただければと思います。

編集後記

「みどりとひと」はみどりのボランティア杉並と協働で編集しています。

- 暖冬の影響で動植物の活動に異変（冬眠、早咲き）が起き、温暖化の進行が不安です。（青）
- 美しい景観を維持し形成するには、お金や労力だけでは不可能であることを痛感する日々です。（芦）
- 桜の季節になると何となくうきうきします。区内でもさまざまな桜が楽しめます。さて皆さんはどこにお花見に行きますか。（山）
- 今冬は暖冬のせいか花粉症がすでに始まってしまいました（淳）
- また一つ、区内の豊かな緑と歴史を知り、それと同時に、また多くの先輩の知識を学ばせて頂きました。（松）

みどりの新聞　みどりとひと138号　平成19年3月23日発行
編　　集／みどりのボランティア杉並
編集・発行／杉並区都市整備部みどり公園課　〒166-8570　杉並区阿佐谷南1−15−1　☎ 03−3312−2111
「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。　http://www.city.suginami.tokyo.jp/

R100　PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は、大豆インクを使用しています。また、古紙配合率100%再生紙を使用しています。

▲カタクリ

▲カタクリ

▲ボランティアの活動

▲フクジュソウ

▲ホタルブクロ

野草園のお手伝い出来る方を募集しています。

＜問合わせ＞みどりのボランティア杉並植木応援団　安藤　Tel・Fax 3323-6147

春の風に誘われてカタクリ散歩へ

カタクリの花が咲く公園

ウグイスの声を聞くと草木にもふっくらと春の命が湧き上がり、新緑に触れたくなりますね。

桜と同じ頃、薄紫色のカタクリも咲き始めます。カタクリはお隣り練馬区、清水山憩いの森が有名ですが、杉並区内でも名所になりつつある場所があります。善福寺公園より川に沿って6番目の橋、下流側に湧水がある原寺分橋（はらてらぶばし）近くの井荻公園（西荻北4－38－17、愛称ドングリ公園）東側斜面にある野草園です。

2002年秋に地元、ボランテイア、業者の方々で、フクジュソウ（開花時期2月上旬～3月中旬）、カタクリ（3月上旬～4月下旬）、ニリンソウ（3月下旬～5月上旬）、ホタルブクロ（5月上旬～6月下旬）等の株を植え付けて5年目の春を迎えます。カタクリだけでも2,640株を植え、その後も植え増しました。カタクリは種ですと咲くまで5年以上8～10年、花も2年に一度しか咲きません。

野草園は杉並区みどりのボランテイア「植木応援団」の活動日に合せ一般公開をしております。現在は野草園の手入れ（下草刈り、落ち葉の処理等）も植木応援団がおこなっています。花の最盛期には特別公開もします。

＜公開時期の問合せ＞

杉並区みどり公園課みどりの計画係

TEL　03－3312－2111

緑の歳時記

サクラ（桜）バラ科

サクラは、バラ科サクラ属サクラ亜属の落葉高木の総称です。主に北半球の温帯と暖帯に分布しますが、インド、ヒマラヤが日本の桜類のルーツとも言われています。日本の山野に自生するサクラは9種ほどですが野生種から育成されたサトザクラの園芸品種は数百種にもなります。サクラは、古くから私たちの生活、文化に深いかかわりがあります。和歌をはじめ、文学作品や芸術などのテーマやモチーフとされ、春の開花は秋の豊穣を占い、多くの民間年中行事に残されています。観桜の会としての「桜の宴」が初めて催されたのは嵯峨天皇の時代といわれ、宮中で行われた行事がやがて民間に伝わり庶民の春の風習「お花見」となりました。古来より日本人の心をとらえてきたのはヤマザクラですが、今ではソメイヨシノ（オオシマザクラとエドヒガンの雑種）がなじみ深く、観賞用として庭木、公園樹、街路樹として広く植えられています。利用として、材は版木、建築、器具、家具などに利用され、ヤマザクラの樹皮は樺細工、鎮咳、去痰剤に、八重桜の「関山（カンザン）」の花の塩漬けは桜湯に、オオシマザクラの葉の塩漬けは桜餅を包むのに使います。サクラを都道府県の花としているところは、ソメイヨシノ（東京都）、フジザクラ（山梨県）、シダレザクラ（京都府）、ナラノヤエザクラ（奈良県）です。花ことばは富と繁栄です。

▲八重咲き
雄しべ、雌しべ、がくが花弁に変化。花弁11～60個。

▼一重咲き
花弁5個、雌しべ1個、雄しべ30～40個。

写真撮影：青木繁伸（群馬県前橋市）

和名の由来

①古事記にあるサクラの霊とされ木之花咲耶姫（このはなさくやひめ）のサクヤから転じて

②サキムラガル（咲簇（むら）がる）の約。花が群がり集まって咲く様子から

みどり探訪　長屋門裏に茂る園庭のみどり

杉並のみどりとそれに関わる方々をご紹介します。

妙正寺の山門の南にある裕和幼稚園（清水二丁目）の園庭には、色々な種類の庭木があります。

園長先生のご案内で園庭を見せて頂きました。幼稚園が出来て29年、それ以前、この辺りは竹林だったそうですが、今はカヤ、ケヤキ、イチョウ、ネズミモチ、カシ、シデ、ゲッケイジュ、サカキ、シキミ、キンモクセイ、マツ、サルスベリ、ナシ、カキ、シュロなど、その樹種の多さは小さな樹木園といってもよさそうです。園庭の中央にあるカヤ、ケヤキ、イチョウなどの高木は20メートルもあろうかと思う程で、その樹冠は園舎の屋根の上のスカイラインを彩っています。100～300年の樹齢のものもあるそうです。園庭の中央には、二股になつたケヤキの根本の間からマツが生えている珍しい株立があり、これは、庭の中に入らなくても、東側の道路からみることができます。園庭の西側の孤高にそびえる勇姿は、常緑針葉樹のカヤです。でも、園庭の主木はオオイチョウ。かつては、この木のてっぺんから荻窪の陸橋が見えたとか。晩秋には銀杏拾い、焼き芋、落ち葉遊び等楽しみが一杯ですが、枯れ葉の始末が大変とのこと。

敷地に沿って南にまわると、築後180年程になるという長屋門も風情があり、妙正寺公園近辺の散歩に一足伸ばしてみてはいかがでしょう。

▲園庭中央のカヤ

【前号の誤植について】「イチョウ」のイラストの、「雄花」と「雌花」の表示が逆になっていました。お詫び申し上げるとともに、訂正いたします。